

研究への粘り強い取り組みを期待して

千葉市総合展覧会科学部門は本年度で57回を迎え、科学論文集も第54集を完成させることができました。県科学作品展同様に半世紀を越える歴史と伝統を誇っています。

この栄えある総合展で入賞された皆さんは、日頃の努力が報われ、喜びもひとしおのことと思います。科学工夫作品では、日常生活の不便さを解消するような工夫、夢や希望が感じられるものが多く見受けられました。どれも楽しく、アイデアに溢れたすばらしい作品でした。また、科学論文では、身近な自然や生活の中から、疑問を見出し、粘り強く観察や実験を繰り返して結果を出し、自然のきまりを発見しているものが多く、研究への真摯な取組がうかがえる作品でした。

さて、去年は、名城大学の赤崎勇教授、名古屋大学の天野浩教授、米カリフォルニア大学サンタバーバラ校の中村修二教授の3人がノーベル物理学賞を受賞しました。みなさんも記憶に新しいことと思います。

エネルギー効率に優れ、環境に優しい発光ダイオード（LED）を開発したことが高く評価され、受賞に結びつきました。

青色のLEDの開発により、赤・緑・青の3原色を組み合わせることが可能となり、今では、信号機や携帯電話、街頭を飾るイルミネーションなど、いたる所で利用されています。

今回の受賞は日本人として大変誇りに思いますが、それと同時に、成功に至るまでの様々な困難の克服と研究に対するたゆまぬ努力と真摯な取り組みがあったことを忘れてはなりません。

皆さんも、今回取り組んだ研究や工夫作品の製作を契機に、身の回りのあらゆる場面で、またこれからの人生の中で、工夫したり追究したりする心をさらにしっかりと持ち、実行して欲しいと思います。そして、自分の目標に向かって粘り強く取り組むことが、大きな成果につながります。それが、周りの人々のためになることであれば、もっとすばらしいことでしょう。

結びに、本作品集の編集にあたり御協力いただいた皆様のご尽力に心より感謝申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

平成27年3月

千葉市教育委員会学校教育部
指導課長 山本幸人